

令和6年度事業計画

山口芸術短期大学

【教育1】新たな教育理念・ビジョンに基づく教育の質保証

1. 宇部学園ビジョン2030の浸透

- (1) 建学の精神・教育理念・ビジョン2030をステークホルダー（教職員、学生、保護者、高校生、地域等）へ周知する。
 - ① 学生に周知するため、建学の精神、教育理念、ビジョン2030を学生ハンドブックに掲載する。その上で、在学生には学科オリエンテーション、新入生には初年次教育で説明し、その後も折に触れ繰り返し理解を促す。また、教職員への周知については、新人研修や夏期・冬期の理事長・学長あいさつで実施していく。特に学修成果、ディプロマポリシー、シラバスとの関連性については、学生には初年次教育及び各授業において、教職員には年度はじめの会議で説明する。
 - ② 非常勤講師に周知するため、非常勤講師との意見交換会において、建学の精神・教育理念・ビジョン2030について説明する。また、保護者、高校生、地域への周知については、Webサイトでの広報の工夫により学園ビジョンの浸透を図る。非常勤講師には、学修成果、ディプロマポリシー、シラバスとの関連性についても説明する。

2. 教学マネジメントの機能強化

- (1) 内部質保証を確保するための自己点検・評価活動及び外部評価を継続的に実施する。
 - ① 内部質保証の確保及び令和8年度受審予定の認証評価の準備に向け、自己点検・評価委員会等において、認証評価機関が定める基準や教育の内部質保証等に係る必要な情報の共有を行う。
- (2) 学修成果の量的・質的な測定・分析により、教育の質の向上を図る。
 - ① アセスメント・ポリシーに基づき、入学段階・在学中・卒業時の学修成果を機関レベル・教育課程レベル・授業科目レベルで把握・測定し、三つの方針や教育課程の見直しに活用する。
 - ② アセスメント・ポリシー及びその細則に定めた指標等の再設定や見直しを行い、教職員の負担軽減を行いながら、それらの指標の全データをWebページ上に公開する。
 - ③ 学修ベンチマークを活用して、学修成果（8つの力）の獲得状況を確認、分析し、授業内容及び教育方法の改善を進める。
 - ④ GPおよびGPA等を活用して授業科目の教育内容の改善を行うとともに、学修ポートフォリオ（履修カルテを含む）を用いた個別指導を推進する。

【教育2】教育内容・方法の改善

3. Society5.0の時代に求められる新たな資質・能力を兼ね備えた人材の育成

- (1) 新たな教育理念及びビジョンに基づき、現行の教育課程を修正し、運用する。
 - ① 新たな教育理念とビジョンの実現に向けて、リベラルアーツを含むSTEAM教育及び全学共通科目等についての検討を具体的に進める。
- (2) 現行3法令（幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領）を踏まえての新養成課程の検証及び養成品向上を図る。
 - ① 「教育課程検討チーム」において、養成課程に関して令和5年度段階で判明した学生数に対するクラス編成等の課題の解決を図る。
- (3) Society5.0の時代を生き抜く人材を育成するため、広い視野で時代の変化に適応する力を育む教育課程を編成する。
 - ① アセスメント・ポリシーに基づいて前年度の学修成果を評価し、評価結果を活用して教育課程を見直す。
- (4) 新たな社会をけん引する人材を育成するため、Society5.0の時代に求められる情報利活用能力を高める授業を行う。
 - ① BYOD(注)化に向けて授業内での情報機器の利用を促進するとともに、保育者に求められるICT

教材の製作技能及び基本的活用方法について、令和5年度の研修で共有した内容を授業に導入して実践例を共有・蓄積し、今後の授業での活用方法を引き続き検討する。

(注)BYOD：学修用端末の個人所有

- ②ソフトウェアを活用した文書作成やデータ活用の能力及びプレゼンテーションスキルを高め、情報を収集、分析して、課題解決能力や様々な変化に適応する力を身につける授業を行う。
- (5)アクティブラーニングやPBL（課題解決型演習）を取り入れ、学生の主体性や協働性を高め、課題発見力及び解決力を育成する授業を行う。
 - ①令和5年度の学修ベンチマークルーブリック又は実習評価表で明らかとなった課題について、学科教員で共通意識を持って、教育課程全体を通じて力量向上を図る。
 - ②学生の主体性や協働性、課題発見力・解決力を育成することを目的に、デザイン思考を組み込んだPBL教育を実施し、連携先の担当者及び学生の評価に基づき教育効果を検証する。

4. キャリア教育・キャリア支援の充実

- (1)キャリア支援センターを主体とした学科との連携による個に応じたキャリア支援の充実を図る。
 - ①学科と協力して、学生の進路希望を把握し、就職及び進学に関する情報提供と支援を行う。
- (2)入学前教育から卒業後までを見据えた一貫したキャリア教育を構築する。
 - ①県内の保育専門職に就職した新卒業生だけでなく、県外や一般企業に就職した新卒業生にも、本学のキャリア教育アンケートを実施し、キャリア教育の在り方を検証する。
 - ②入学前課題、入学サポートセミナー、1年次の「芸術表現入門」「社会人基礎」「キャリアデザイン」「インターンシップⅠ」「インターンシップⅡ」、2年次の「キャリア実践演習」に関して、前年度の評価結果に基づき改善策を検討し、系統的に実施する。

5. 学生・生徒の生活支援の充実

- (1)多様化する学生に対応できる学修支援・学生生活支援の体制を確立する。
 - ①学生アンケート（全学年に実施）や学生FD等を通じて寄せられた学生の意見や教員からの意見などを参考にするとともに、学生からの相談体制（学生相談室、チューター制度等）の拡充・実施を通じ、現状に即した課題等を抽出し対応する。
- (2)多様な背景を持つ学生に対応した個別指導の充実を図る。
 - ①個に応じた効果的な支援を充実させるため、チューターを中心に学内で連携して学生の情報を共有するとともに、専門家（臨床心理士）の知見を生かした支援の充実を推進する。

【教育3】地域連携活動

6. 地域との連携推進

- (1)地域文化の振興のため、公開講座・イベントを開催するとともに、学生による地域のボランティア活動への参加を促進する。
 - ①地域文化の振興のための公開講座・イベントとして、子育て関連ワークショップや子ども総合研究発表会（保育学科）、及び卒業修了制作展・演奏会（芸術表現学科・専攻科）等を、開催時期を工夫しながら内容を充実させる。また、地域貢献活動が学生募集活動につながるように入試広報活動との連携を強化する。
 - ②学生による地域のボランティア活動への参加を促進するために、引き続き社会の動向や学生の実習時期も確認しながら、オリエンテーション等で呼びかけ・案内を行う。
 - ③大学や大学教員による、積極的な地域貢献活動を継続する。
 - ④「山口市との包括連携」及び「やまぐち地域共創プラットフォーム」の活動のもと、地域の課題解決や地域貢献事業への組織的な取り組みを継続する。
 - ⑤秋吉台国際芸術村と連携し、「芸術人材育成プログラム」の一環とした連携事業を進める。

【運営1】ガバナンス強化と業務の組織化

7. 持続可能な組織整備と運用

- (1)学長直轄の組織体制を整備し、運用する。

- ①学長のリーダーシップを支える機能強化のために、学長企画会議においては、将来構想を含めた重要な課題の解決に向けた協議を進める。その一方で、学科との連携を強化するための体制の整備を進める。
- (2)「働き方改革への取り組み」と「学生数に応じた適正な教職員体制の維持」の観点から人事計画の点検と改善を行う。
 - ①令和 6 年度の適正な運営体制の維持を図るため、令和 5 年度末の退職者等を考慮し、3 名を新たに採用する。
また、教育の質保証・向上に向けた適正な教職員体制を維持するために、令和 6 年度内の退職者補充に伴う人事計画を策定し、令和 7 年度運営体制の維持に必要な教職員を確保する。

8. 教職員の知識・能力、資質向上とマネジメント力強化

- (1) FD/SD 研修会を通じた知識・能力、資質向上の取り組みを充実する。
 - ①教職員の知識・能力・資質の向上に向けて、教育の内部質保証を機能させるための教学マネジメントの体制整備にかかる全学的な FD/SD 研修を実施する。
 - ②全学的な取組として相互授業参観の実施数の拡大を図りながら、授業アンケートで肯定的評価を得られなかった項目の改善に資する参観の促進や、ティーチング・ポートフォリオにおける相互授業参観の活用についての項目追加等を通じて、授業改善の実質化を図る。
 - ③学生目線の教育改善を実施できるよう、全学生に呼びかけ、引き続き「学生 FD」を実施する。また、内部質保証を確保するためのアセスメントに資するよう、実施方法や活用方法を工夫する。

9. 学部・学科等組織再編の検討と実施

- (1)適正な学生数を確保するため、入学定員や収容定員の管理を実施する。
 - ①適正な学生数を確保するため、中期計画期間 5 年間の学生数予測と入学定員や収容定員の適正な管理による、短期大学設置基準に基づいた認可申請の要件に沿った管理を行う。

10. 部門間連携強化

- (1) 亀山幼稚園との緊密な連携による保育者養成を行う。
 - ① 亀山幼稚園教諭による授業に加え、本学教員が出向いて行つての研修も継続し、部門間の教員連携を強化する。また、初年次教育における見学実習から本実習や再実習の対応も含めた、保育者養成の課程を通じた連携について検討する。
- (2) 慶進高校、成進高校との連携を強化し、出前講義や教育支援を行う。
 - ① 慶進高校、成進高校に対して、出前講義や部活動への教育支援を行う。

【運営 2】リスクマネジメント強化

11. 学校安全対策の検証と強化

- (1) これまでの危機管理対応に加え、新型コロナ対策も踏まえた実質的な体制を整備し、授業、入学試験及び学生生活等についてマニュアル化を図る。また、諸活動を通じて見直しを図りながら大学運営を行う。
 - ① 危機管理対策本部会議において、国の感染予防対策の動向も注視しながら、「危機管理基本マニュアル」等に基づき、事業継続計画 (BCP) の周知徹底及び事業継続マネジメント (BCM) 等の運用を行う。
- (2) 防災訓練の充実を図る。
 - ① 南海トラフ地震を想定するとともに、「危機管理基本マニュアル」及び「学校安全計画」、

「消防計画」に基づき、年1回の防災訓練の充実と災害を想定した避難訓練を行う。

【運営3】学生・生徒募集

12. 学生・生徒募集活動の強化

- (1) 全選抜区分の入学後の学修状況の調査とクロス分析による入学者選抜の妥当性の検証をする。
 - ① 入学後の学修状況調査を行い、入試区分及び入試成績との相関を検証するとともに、入試日程等の見直しを行い、入学者数の定員確保を目指す。
 - ② エントリー式総合型選抜において課す表現技術についてさらに検討し、その結果をオープンキャンパスやWebサイト等を効果的に活用し積極的に広報していくことで、保育者を目指す学生としての資質を備えた受験生の幅広い確保を目指す。
- (2) 高大連携及び高大接続の促進により、本学教育への信頼度及び入学者の質の向上を図る。
 - ① 高校との信頼関係の構築のため、アンケートの実施や聞き取り等を行って、そのニーズや実態把握を行う。

【財政1】自己収入増と経費抑制

13. 経営判断指標「A」の維持

- (1) 定量的な経営判断に基づく経営状態の区分（学校単位）での「A」段階を維持する。
 - ① 令和6年度予算執行については、個々の事業内容を精査しながら経費の適正かつ効率的な執行を進める。
また、大学・短大部門における中期計画期間5年間の収入・支出シミュレーションを行い、収入見込に対する人件費・教研費・管理経費・施設設備支出のバランスを意識し、令和7年度予算編成を行う。
- (2) 経常費補助金の確実な獲得を目指す。
 - ① 「経常費補助金特別補助」及び「私立大学等改革総合支援事業」等の申請による経常費補助金の追加配分の獲得を図る。
- (3) 外部資金及び寄附金等の獲得に関する取り組みの強化を図る。
 - ① 科研費等の競争的研究費の獲得支援のための研究助成制度を継続し、研究助成経費配分方針のもとに配分を行うとともに、令和6年度内に研究助成制度を検証し制度の見直しを行う。また、新任教員への研究助成制度の周知を行い、科研費を含む競争的資金獲得を推奨する。

【財政2】施設・設備・構内環境の点検と改善

14. 施設・設備の計画的な整備

- (1) 財政的観点からのキャンパスデザイン構想の確立と施設・設備の計画的な導入をする。
 - ① 「施設整備・ICT整備ロードマップ」に基づき、上記13.(1)①での収入・支出シミュレーションの検証結果を考慮し、各補助事業募集に注視しながら施設・設備計画を実施する。
 - ② 環境整備計画に基づいた学内の施設、設備の点検を実施し、コスト節減を図るとともに、年度毎に計画の内容を検証する。
 - ③ 「施設整備・ICT整備ロードマップ」に基づき、上記13.(1)①での収入・支出シミュレーションの検証結果を考慮し、以下の施設設備整備・環境整備を予定する。

<施設設備整備・環境整備予定>

令和6年度 設備計画

イ) 学内照明設備の更新(水銀灯・蛍光灯LED化)

C棟・G棟・I棟・M棟・外構

ロ) 学内什器の更新

- A304 イス (PC (Mac) 教室)
- A403 イス (被服教室)